

上尾市立大石南中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

人生の基礎を培い 夢を語り 向上心と勇気を育てる
出会い ふれあい 学びあい

学校課題研究主題

「生徒の探究力を伸ばす教育活動の工夫」～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと協働的な学び～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査

- ・国語では、特に話すこと・聞くことにおいて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。
- ・数学では、「データの活用」は10ポイント、「図形」と「関数」の領域も6ポイント上回っている一方で数と式の領域について問題別正答率で分析すると、文字を用いて説明する問題の正答率が低い。

R7 埼玉県学力・学習状況調査

- ・学力レベルは全学年全科目とも伸びている。特に中2の数学では前年と比べ4伸びている。
- ・努力調整方略が全体的に低い傾向が見られ、継続的に努力をして、最後までやり抜く力をどのように身に付けさせるかが課題である。
- ・基礎的な問題で回答できていない生徒もいる。学力の全体的底上げを図っていくことが課題である。

R7 上尾市立小・中学校学力調査

- ・2年生(現3年生)は、全科目とも教科全体で目標値を上回り、基礎的な内容が身につけている。今後は、既習事項を活用して、応用力を伸ばす必要がある。
- ・1年生(現2年生)は、全科目とも教科全体で目標値を下回り、基礎的な学力を定着させることが急務であるとともに、自ら学ぶ意欲を育て、学びにつなげたい。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得

- ①個々の知識を教科横断的に結び付け、体系的に捉える力
- ②文章や言葉の意味と使い方を正しく理解する力
- ③学習した技能を、家庭や日常生活で使用し定着させる力

思考力・判断力・表現力等の育成

- ④文章や他者の発言から、その要旨や意図を読み取る力
- ⑤目的にあわせて適切な表現を判断し、文章にする力
- ⑥自分の考えを、理由や根拠をもとに筋道立てて説明する力

学びに向かう力・人間性等の涵養

- ⑦自分の意見を積極的に伝え、粘り強く学習に取り組む力
- ⑧学習内容を更に探求したり、思慮深い行動したりする力
- ⑨自分にあった目標を立て、見通しをもって学習に向かう力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得

- ・他教科の学習内容との関連を考えたり、現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、意見交流を通して多様な知識を身につけられるようにする。
- ・新しく学習した知識や言葉を用いて表現したことを伝え合う活動を行う。
- ・習熟度別授業等で基礎的知識の定着をしっかりと行い、学力の底上げを図る。

思考力・判断力・表現力等の育成

- ・自分の考えを表現するとともに相手の意見や文章表現からその意図や伝えたいことを読み取る活動を取り入れる。
- ・自分が伝えたいことや、達成する目的に合わせて自分の考えや文章を推敲したり適切な表現に変えたりする活動を行う。
- ・実験結果や資料から、事象の要因を考察し、理由や根拠とともに表現する活動を行う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- ・ペアやグループになり、積極的に考えを伝え合い、そのために必要なスキルを身に付けさせる活動を行う。
- ・学習内容と自分の生活を結び付け、主題や題材に込められたねらいや想いを読み取り、よりよい活動を目指す取組を行う。
- ・学習内容をもとに、現代の諸課題と関連付けることによって、持続可能な社会を実現させる力が身につくようにする。

本校の特色ある取組

- ・磨心（まごころ）清掃の実施
- ・石南学習会の実施
- ・生徒による校則「石南 LIFE」の施行
- ・年間5回のイベントテストの実施
- ・教科ルームの充実
- ・少人数指導等の実施
- ・実力テストの実施
- ・学力向上推進委員会の設置
- ・学習時間を確保した教育課程

家庭教育との連携

- ・フッ化物洗口の実施
- ・自学ノートの活用
- ・「学びのススメ」の活用
- ・「ISNINAN進学フェア」の実施

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①個々の知識を教科横断的に結びつけ、体系的に捉える力 ②文章や言葉の意味と使い方を正しく理解する力 ③学習した技能を、家庭や日常生活で使用し定着させる力	④文章や他者の発言から、その要旨や意図を読み取る力 ⑤目的にあわせて適切な表現を判断し、文章にする力 ⑥自分の考えを、理由や根拠をもとに筋道立てて説明する力	⑦自分の意見を積極的に伝え、粘り強く学習に取り組む力 ⑧学習内容を更に探求したり、思慮深い行動したりする力 ⑨自分にあった目標を立て、見通しをもって学習に向かう力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②、④、⑤、⑥	②毎授業初めに言語事項の学習をする時間を設定し、その解説を丁寧に行う取組。 ④⑤⑥日頃の授業において、相手意識をもって自分の意見をわかりやすく表現する活動を取り入れるとともに、相手の意見や文章表現からその意図や伝えたいことを読み取る活動を行う取組。	
社会	③、⑥	③資料を活用し、課題を見出し、公正な視点で解決策を考える取組。 ⑥背景を明らかにし、自分の言葉で説明する取組。	
数学	⑥、⑦	⑥問題解決時、解法の理由や根拠を明確に発表する取組 ⑦グループ学習で、解き方や考え方を伝え合い、1人で解けない問題も、それらを手掛かりに粘り強く課題解決に向かう取組	
理科	①、⑥	①計算問題を中心に反復練習を行い、苦手意識を無くしながら基礎事項の定着を確実にする取組。 ⑥話し合いで他者の意見を参考にしながら、レポートの優秀事例を参考にし、論理だてて考察する力を養う取組。	
外国語	②、⑦、⑨	②新出語句と言語材料の特徴や意味を理解させ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の四技能をバランスよく伸ばす取組。 ⑦積極的に自分の考えや気持ちを伝え合うために必要な技術や学習内容を習得しようとする取組。 ⑨定期的に単語テストやパフォーマンステストを実施し、それに向けて目標を持って学習させる取組。	
音楽	②、⑧	②音楽記号や強弱記号を理解し楽譜を見て、それらを用いて表現し伝え合う技能の取組。 ⑧歌詞の内容や曲想を理解し、その思いを伝え合い表現する取組。	
美術	①、⑧	①これまでの経験から発想・構想し、自ら作品主題を考える取組。 ⑧主題に合わせて表現方法を工夫し、よりよい作品にするために探求していく取組。	
技術	①、③	①理科、社会科の指導計画に合わせ、多角的な学びを進める取組。(電気エネルギー、環境負荷、食糧問題等) ③夏野菜の栽培、食材としての利用に係る取組。	
家庭	⑤、⑧	⑤生活の場面に合わせた言動を考え、表現し伝え合う取組。 ⑧体験を通して、自分の生活や社会の課題を見出し、生活を工夫しようとする取組。	
保健体育	③、⑦ ⑨	③知識や運動経験を元に、自己の健康や運動習慣に結び付ける取組。 ⑦ペアやグループ学習を通して考えを伝え合い、粘り強く課題解決に向かう取組。 ⑨自己の目標や課題に応じた練習方法を選択し、目標達成に向かう取組。	
特別の教科 道徳	⑧、⑨	⑧題材を日常生活に置き換え、今後の生活とリンクさせ、考えさせる取組。 ⑨これからどのようにに他者と関わり、自身の人生を歩んでいくのかを様々な視点から考えさせる取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

・磨心(まごころ)清掃の実施	非認知能力の育成を目指し、生徒が自ら清掃に集中して取り組む清掃活動を実施している。責任感を醸成するため清掃長を各分担場所に設け、生徒会本部と連携し主体的な取組を実施している。
・石南学習会の実施	定期テスト前の最終授業コマを使い、クラスでは自習、特別教室では先生に質問したり、生徒が互いに教え合ったりできる場を設けた。
・生徒による校則 石南 LIFE の施行	生徒によって校則を設定し、生徒総会で改訂していくことによって、生徒の非認知能力の向上を図っている。
・年間5回のイベント テストの実施	英単語や400マス計算など、全学年共通のテストを実施している。練習の時間を設け、努力すれば満点を取ることができる環境を整えることで、達成感を味わわせて学習意欲の向上を図っている。
・教科ルームの充実	国語・数学・英語・社会において、教科ルームを設置し、それぞれの教科に特化した教室づくりを行っている。授業環境を充実させることで集中力を高め、学習活動の活性化を図っている。
・少人数指導等の実施	国語・数学・理科・社会において、TTや単元に応じた少人数指導・習熟度別指導等を実施し、基礎的・基本的な学力の育成と共に応用力の育成にも取り組み始めている。
・実力テストの実施	1・2年生において、年に2回の実力テストを実施し、個人の伸びに着目すると共に、分析結果を基にして授業改善に取り組んでいる。
・学力向上推進委員 会の設置	学力推進委員会を設置し、学力向上に向けて共通理解・情報共有を行うとともに、学校で行っている取組の工夫改善を行っている。
・学習時間を確保した 教育課程	定期テストを2日間で計画をすることで、学習に向き合う時間の確保と学習の質の向上を図っている。

家庭教育との連携

・フッ化物洗口の実施	健康管理の面からも学習を支えていただくため、むし歯の治癒率を高める働きかけとともに、むし歯の予防についても学校から発信し、意識を高める取組を行っている。
・自学ノートを活用	家庭学習の取組を定着させるために自主学習ノートを配布し、毎日の課題を行う取組を行っている。より効果的な取組をしているノートを紹介し、よりよい学習の進め方を身に付けられるようにしている。
・「学びのススメ」の 活用	各教科を学ぶ価値や学習の進め方をまとめた学習シラバス「学びのススメ」を生徒とともに保護者会の資料として活用することで学習の取組の共有化を図っている。
・ISNINAN 進学フェア の実施	10校以上の上級学校の先生に来校してもらい、生徒と保護者が自由に話しを聞ける機会を PTA 主催で設けることで、生徒と保護者両方の進路選択に向けた意識向上を図っている。